

令和6年11月11日

須賀川市議会議長 佐藤 瞭二 様

須賀川市議会

ニュー令和 代表 大内 康司



耶麻文快 代表 安藤 正博



視 察 研 修 報 告 書

先に実施した視察研修概要について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期 日 令和6年10月22日(火)～23日(水)
- 2 視 察 地 山梨県富士吉田市
- 3 視察内容 富士天然水合同会社「水素ガスの活用について」
- 4 参加者 2名 ニュー令和 大内 康司、耶麻文快 安藤 正博
- 5 概 要 行政調査日程及び調査内容は、別紙資料のとおり

以 上



「水素ガスの活用について」

1 日 時 令和6年10月22日(火)

2 概 要

水素ガスについては、脱炭素燃料の切り札として、国策で福島県浪江地域に復興重点事業として、取り組んでいる程で、その重要さはすでに認められているところでございます。本市での活用をどうにか結びつけることができないか調査を進めました。

訪問先は、山梨県富士吉田市の富士山天然水合同会社の本社で、石山久男会長の方針や取組事業内容の説明があり、本社工場内の見学を含め13時30分から18時まで行われました。

3 所 感

(1) 大内 康司

一方的な講演でしたが、富士山麓で始業した天然水の会社の利益を次々と研究開発に転用して、グリーン水素ガスの開発、発見による発電事業が、現在までの発電コストより大幅な低下が見られ、東京電力や川崎製鉄等との合同企画にメガバンクの出資と国の補助金の活用で進行中であり、世界158か国と条約を締結済み。

現地で発生させる水素ガスの利用で、24時間稼働で送電変電所も不要となり、3分の1のコストで発電が可能、台湾の世界規模の半導体メーカーと政府による契約による共同事業も実施中であります。福島県の震災復興の政府の強力な助成による浪江地域に展開中の水素開発事業と比較しても、大変魅力的な計画のように感じます。

本市が取り組み始めた滑川地区の工業団地に水素ガスによる発電所ができたならば、県中地区における工業地帯をして郡山と少しは並んでいくことができるのではないかと。川崎市における計画が成功すれば、電力会社の発電方法も変化していくように思われます。

資金不足でなかなか計画が追いつかない地方自治体にとって、政府が進めようとしている地方への企業移転に沿った考え方を市議会と行政が互いに研修し合って、市長が進めようと

している首長によるトップセールスに結びつける事ができるように、市議会に水素ガスの活用と工業団地造成の進め方特別委員会の設置を提言いたしまして、視察報告といたします。

(2) 安藤 正博

水素発電の良い点は、設置場所が広くなくてもできる事、23坪、高さ8m、タンク2台の容量で、水と石の反応で水素を製造できる技術はすごいことだと思います。

生成制御の外部貯蔵タンクは高圧でない為に、どの場所へでも設置できるとの説明でした。これは、世界、日本のエネルギー革命だと感じました。この水素発電は安全でクリーンなエネルギーです。須賀川市発展の為にも水素発電、水素ガスができたならば、大手企業などの進出が有利になり送電コストも低くなります。

国、県に働きかけて実現できるように進めたいと思うとともに、日本を支える技術だと感じました。環境省もCO²削減の取組に力を入れています。

4 視察風景

